

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

発行所 日本農業新聞
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2番3号

©日本農業新聞2015

2015年 (平成27年)

5 | 30

土曜日

農村と都市 交流考える

札幌市でセミナー

【石狩中央】道内の農村と都市を結び付けて新たな地域交流と振興の掘り起こしを進める「農都共生研究会」（札幌市）は25日、札幌市でミニセミナーを開いた。キャスターで慶応大学特任教授も務める林美香子代表が愛媛県での地産地消の動きを報告し、その後トマトジュースなどの飲み比べも行った。

今年3月に愛媛県内を視察した林代表はまず、今治市にあるJAおちいまばりの農産物直売所「さいさいきて屋」の取り組みを紹介した。1年間に25億円も売り上げる秘訣（ひけつ）について「農家が出荷する農産物



トマトジュースを飲み比べるミニセミナー参加者（札幌市で）

を全て買い取るので、農家の生産意欲が向上し高品質な品物を出すようになる」と指摘した。

さらに直売所内にあるカフェでは新鮮な地場果物を使ったスイーツが大人気で、林代表は「農産物の消費拡大と知名度アップにもつながっている」とし、直売所とカフェが相乗効果を生み出し好循環な環境にあると見立てた。

セミナーには雑誌編集者やライター、行政関係者ら10人が参加。飲み比べでは旭川市、上川管内鷹栖町、空知管内由仁町の農家で取れたトマトを使った3種類のジュースと市販のものを出した。参加者は色や匂いを確認した後、実際に飲み比べで産地や品種による味の違いを実感していた。